

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200992		
法人名	株式会社 レナール		
事業所名	グループホームオアシスことしば		
所在地	山口県 宇部市 寿町 三丁目2-5		
自己評価作成日	平成29年4月	評価結果市町受理日	平成29年9月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年5月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宇部市の中心部に位置している当グループホームはすぐ近くに琴芝駅があり、遠くに住んでおられるご家族や車を持たないご家族がご面会に来ていただきやすい環境にあります。母体病院や訪問看護ステーションも近くにあります。緊急時には24時間、相談や受診ができるような体制ができています。窓からは公園や上り下りの電車が見え、行きかう人や時間の移り変わり、四季が実感できます。また、ショッピングセンターが近くにあり、利用者様と一緒に買い物に出かけて生活用品や食品などを買っています。近くの保育園と交流をもち、「今から〇歳児がそちらの方に散歩に出かけますよ。」と連絡をいただく事があり、窓から手をふるなどして、交流を深めています。1年前から近所のコンビニが週1回ペースで出張販売に来られるので自分の好きなお菓子など気軽に買いに行ける環境もできました。職員は、『そのひとらしく 楽しく ゆったりと安心して』の理念のもと、日々の支援を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は法人からの配食を利用され、汁物とご飯は事業所でつくっておられます。週1回の昼食は利用者と職員と一緒に事業所でつくっておられ、利用者は、米研ぎや野菜の下ごしらえ、調理、味見、盛り付け、テーブル拭き、お茶汲み、配膳、下膳、後片付けなどを、職員と一緒にしておられます。梅ジュースや干し柿づくり、おやつづくり、誕生日のケーキ、花見弁当を持って戸外食、お茶会等、1年を通して「食」を楽しむ工夫をされて、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。日記をつけたり、写経をする、皇室写真集を見る、電子ピアノを弾く、編物をする、様々な体操や脳のトレーニングなど、利用者一人ひとりのできることやしたいことを把握され、楽しみごとや活躍できる場面づくりをされて、張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。職員は理念や目指す姿勢(笑顔、笑い声、ふれあい、支え合う)を基に利用者の笑顔があふれ、利用者に関わる全ての人が支え合うことができるような支援に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに〇印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに〇印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示しており、その理念のもとに、そのひとらしく暮らせるための支援のあり方を日々模索しあいながら、実践につなげるようにしています。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を職員全員でつくり、目指す姿勢(笑顔、笑い声、ふれあい、支え合う)とともに事業所内に掲示して共有している。日々のケアの中で、理念を確認し、意識付けして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺を散歩しながら出会う人に挨拶して、少しずつ顔見知りになれるよう、歩くコースや時間にも気を配るようにしている。(児童の下校時間に合わせる等)。校区の広報誌から参加できそうな行事をみつけ、出かけるようにしています。	自治会に加入し、自治会だよりを通して地区行事の把握をしている。利用者は、地域のふれあいセンターに梅の鑑賞や展示物の見学に行き、散歩時には近くの保育園の傍を通り、園児の活動を眺めている。法人の複合施設合同で主催の納涼祭で地域から参加者している人と交流している。読み聞かせで来訪しているボランティアや法人デイサービスの施設行事(踊り、手品、大正琴等)に参加したり、月1回ある誕生会(コーラス、マンドリン、手品、小学生のクラシックバレエ)に参加して交流している。周辺の散歩や買物時には近所の人と挨拶を交わし、小学生の下校時間や保育園児の散歩時間に合わせて散歩をしているなど、日常的に交流できるように取り組んでいる。看護大学生の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、相談などは随時受け入れをしています。地域の学校からの実習生の受け入れも行っています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価及び外部評価の実践に取り組みながら実践状況を把握し、自分たちのケアをふりかえる事で課題への気づきにつなげています。	管理者は、評価の意義を説明し、ガイド集を見せ、各項目別に分けたものを、職員2人1組になって自己評価をしてもらい、各ユニットの管理者2名でまとめている。全職員で課題を共有し検討するまでには至っていない。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、運営推進会議メンバーの拡大や地域の保育園児との交流、内部研修の実施等、具体的な改善に取り組んでいる。	・全職員での自己評価への取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告や活動内容とともに外部評価の取り組みについても報告しています。参加者からの意見やアドバイスをいただき、今回から事故報告やひやりハットだけでなく気がかりな事にまで掘り下げて報告する事になりました。	会議は、新たに前民生委員と保育園園長をメンバーに加え、年6回開催している。利用者の状況や活動内容、行事予定、事故・ヒヤリハット報告、外部評価等を報告の後、市職員による「地域包括システム」の勉強会を行い、意見交換をしている。家族の参加を増やすために家族会と同日の実施や日曜日の開催等の工夫をしている。参加者からは感染症対策の実際の取り組みについてや地域行事の紹介があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、担当者の方に参加していただき、状況報告をして、担当者からは情報提供をいただいています。また、家族会などで学習会の講師として協力を頂き情報の発信に寄与いただいています。	市担当者とは運営推進会議時の他、直接出向いて情報交換や相談を行い、運営推進会議時には勉強会の講師を引き受けてもらうなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターは同一法人であり、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修でも定期的に学ぶ機会がありますがスピーチロックも含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。外出希望や外出傾向のある利用者には、施設をあげての協力体制の下見守りの工夫をする事で身体拘束のないケアに取り組んでいます。	複合施設内研修(高齢者虐待防止)で学び、職員は身体拘束の内容や弊害についてスピーチロックも含めて正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば一緒に出かけるなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になる場合は、管理者が指導し、職員間でも注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止についての研修会があります。学ぶ事により、日頃のケアのふりかえりと共に職員間で話し合い、不適切なケアを見過ごすことのないよう意識を高めあう関係づくりをしています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の出前講座を依頼して権利擁護について学んでいます。現在利用されている利用者もおられるため、これからも理解を深めていくための勉強に努めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約に関する重要事項説明書をご家族と一緒に読みながらゆっくり説明し、その都度質問に丁寧に応じながら理解と納得のもと契約を結んでいます。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けて随時受け付けを行っています。家族からは、運営推進会議や家族会、日頃の面会などの時間に意見や要望を伺っています。	苦情相談窓口や第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めて、契約時に利用者と家族に説明をしている。家族の面会時や家族会参加時、運営推進会議参加時、電話、メール、ラインで家族からの意見や要望を聞いている。家族会と運営推進会議を同日に行い、家族が意見を言える機会が増えるように工夫している。意見や苦情は業務日誌に記録して共有している。利用者の身体状況への不安や皮膚の乾燥予防、耳垢取りなど、個別ケアに関する内容がほとんどであり、迅速に対応するようにしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを密にとり、意見や要望を出しやすい関係を築けるよう意識しており、申し送りノートなどを活用して出された意見や要望をまとめて運営側にも働きかけて改善を図る努力をしています。	管理者は、月1回のユニット会議時で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも、意見や提案ができるような雰囲気をつくって聞いている。意見や提案は月1回ある法人の幹部会議に報告し、検討している。備品の購入、服薬マニュアルの作成、理念の具体的行動目標の作成など、意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握しているが、現場の状況を熟知しているわけではない。夜勤者の勤務時間が18時間と長く、改善を求めているが現在まで改善に至っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、外の研修参加の機会があり、施設内研修では学びたい内容を出し合い、専門の講師を招いて研修を行なっています。広報紙も手作りし、まなびを重ねる事で意識の向上もみられます。	外部研修は、職員に情報を伝え、本人の希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は研修報告書を提出し、内部研修の中で伝達し、資料はいつでも閲覧できるようにして職員間で共有している。法人研修は、2カ月に1回、外部講師を招いて実施（認知症と嚥下障害、ボデイメカニクス、心の健康を保つ生活、メンタルヘルス）している他、複合施設内研修でも2カ月に1回、身体拘束と虐待、感染症、避難訓練等を実施している。内部研修は、職員から介護を実施する中で困っていることをテーマにして、月1回のカンファレンス時に管理者や職員が講師を務めて、救急車の呼び方、移乗について、リハビリテーション、糖尿病、服薬マニュアル等を実施している。新人研修は日々の業務の中で管理者や先輩職員から介護の知識や技術を働きながら学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県グループホーム協会での研修会。また、宇部、小野田ブロックでの勉強会や交流会を通じて施設見学など、相互の訪問や意見交換がしやすい環境づくりをする事でサービスの質の向上につなげています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の想い(不安や要望など)をなるべく会話の中や態度からくみ取るようにしています。ご家族にも協力いただき、職員間で情報を共有しながらご本人が安心して生活できるよう支援体制作りにも努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時前後にご家族の不安やご要望をその都度お聞きし、不安を少しでも取り除けるよう努力しています。サービス内容についても疑問などにお答えできるように努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際ご本人、ご家族のご要望がグループホームで対応可能であるかを見極め、他の支援も含め情報提供を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、調理、洗濯、掃除、外出などを共に行い、これまでの生活の中での知恵や工夫を職員の方が教えていただく事もあり、生活者として共に支えあうという関係を築いています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の気持ちを真ん中に、キーパーソンの方に限らず、他のご家族との関係づくりにも努め、家族全員と支え合い、支援いただける様努力しています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚や顔なじみの方の訪問や、手紙、はがきのやりとりがし易い環境づくりに努めています。また、外出時にその方の馴染みの場所をなるべく通るよう、行くようにしています。	孫やひ孫を連れての家族の面会や親戚の人、友人、近所の人、同級生の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。事業所から利用者の自宅付近に出かけたり、同級生と一緒に出かける支援をしている他、家族の協力を得て寺参りや馴染みの商店での買物、法事に参加、墓参、一時帰宅、正月の外泊、外出など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールや、外出時の車の座席などでは、利用者様同士の関係性を配慮して調整するようにしています。日々の生活の中で充実した人間関係を築いていけるような支援を心がけています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方々のご家族と電話やメールを通じてその後の様子を聞くなど連絡をとらせていただいています。また転居された施設への訪問を行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、その方や、家族の希望や意向を確認し、ニーズの把握に努めています。困難な場合は関係者からも情報を得られるよう心がけています。	入居時には基本情報シートを活用して利用者や家族の思いや意向の把握をしている。日々の関わりのなかで利用者の傍らに寄り添い、表情や言動(笑顔があった、何かの欲求があった)を経過記録に記録し、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。把握が困難な場合は関係者や職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や、日々の会話の中からエピソードを記録に残す事で利用者への理解を深め、職員間での情報共有に努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが全利用者の体調、心身の変化に気づける力をつけるよう努力し、情報を共有する事でその方の持てる力を最大限引き出せるよう現状の把握に努めています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別記録やケアカンファレンスでの意見交換、家族からも情報提供いただき、現状に合ったケアの提供から利用者の生活の広がりと繋げていけるよう努めています。	計画作成担当者を中心に月1回、ケアカンファレンスを行い、利用者、家族の思いや要望を聞き、主治医、訪問看護師の意見を参考にして職員で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6カ月毎に見直しをしている。本人の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践からの気づきを個別に記録として残すことで常に職員間で情報を共有し、ケアや介護計画の見直しに活かしています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族のその時々生まれるニーズに対応できるよう、日頃から他のサービスの情報も得られるよう心がけています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事を把握して参加したり、ボランティア団体の方々に訪問いただいたり、近所の住民、保育園、小学校との交流も図りふれあいに努める事で心豊かな生活を楽しむ事ができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医が継続できるように支援しています。認知症の専門医や皮膚科、眼科、歯科などの受診も同様にしています。また受診結果などに関する情報の共有も利用者ごとに話し合い合意しています。</p>	<p>事業所の協力医療機関の他、利用者や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は、月1回、訪問診療があり、緊急時や夜間、休日等24時間オンコール体制で対応をしている。その他の医療機関へは家族の協力を得て受診支援を行っている。歯科は月1回、訪問診療がある。結果は家族には電話で報告し、職員間では連絡ノートや業務日誌に記録して共有している。月2回、訪問看護師による健康観察があり、状態に変化があればが主治医や協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師が月2回健康観察に訪問しています。その都度状態の変化や異常があれば報告や相談を行い医療に連携しています。緊急の相談には電話での受け付けや訪問での対応もしてもらっています。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には本人に関する情報を提供し、ケアについて話し合いを行っています。できるだけ面会に行き病院関係者との関係づくりを行っています。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した際の対応は職員全体で話し合い、家族、本人には事業所でできる事を説明しながら方針を共有しています。</p>	<p>看取りに関する指針を基に、契約時に事業所でできる対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合は早い段階から利用者や家族の意向を聞き、主治医や関係者と話し合いを行い、入所施設や医療施設への移設も含めて方針を決めて、共有し、支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者一人一人の状態を把握し、事故を未然に防ぐ工夫をしています。緊急時の対応は施設内研修、グループ内での研修を実施して習得に努めています。	事例の発生の都度、ヒヤリハット・事故報告書に原因や対応、今後の対応策を記録して管理者に提出し、職員に回覧している。月1回あるカンファレンス時に再度話し合い、転倒や誤薬に関しては1年間の集計結果を分析して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時の対応として法人研修や内部研修で、応急手当や救急救命、誤薬防止に取り組んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を全館で利用者とともに実施しています。また施設内研修で実践力がつけられるような体制作りをしています。災害に備えて飲料水の確保をしています。	年2回(消防署の協力1回)、昼夜の火災を想定した通報、避難、消火、避難経路の確認を利用者も参加して実施している。河の氾濫を想定したシュミレーションを基に内部研修を行い、飲料水の備蓄や心構えについて話し合っている。運営推進会議時に訓練の報告や地域との協力体制について話し合っているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけない対応や声掛けを心掛けています。特に排せつや入浴の場面では誇りやプライバシーを損ねないように注意しています。	法人研修で学び、月1回のカンファレンス時には管理者から、年長者への言葉づかいや居室入室時にノックをすることなどを話しており、職員は利用者の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。実習生は誓約書を持参している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日ごろから利用者の言葉や表情で本人の希望や好みを把握するように心がけています。生活のいろいろな場面で自己決定ができるように働きかけています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや希望を聞きながらその人らしい暮らしのペースを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装を本人が選択されています。行事や、外出日には場面に合った洋服の選択ができるように本人の意思を尊重しながら選択を支援したり助言をしています。愛用の化粧品や好みの髪型の継続を家族や出張美容院の協力で支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理や、盛り付け、片付けや、お盆拭きなど、それぞれ得意な事やできる事を分担して、職員と一緒にしています。四季折々の食材や行事ごとのメニューで食べる事への楽しみをもっといただいています。	法人からの配食を利用し、汁物とご飯は事業所で作っている。週1回の昼食は利用者と一緒に事業所で作っている。利用者は、買物から調理、味付け、盛り付け、テーブルを拭く、配膳、後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて、食材の話を弾ませながら同じものを食べている。毎月1日の赤飯や刺身、おやつづくり(ホットケーキ、かき氷)、弁当を持参して花見をする戸外食、ケーキの付く誕生日食、季節の行事食(おせち料理、節句の寿司、ラーメン)、保存食づくり(梅ジュース、干し柿)、年2回の抹茶会、家族との外食等、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの好みや食事の形態、温度、時間など美味しく食べられるように配慮しています。食事量や水分摂取量を記録して職員が把握し、過不足に応じて摂取量の調節をし一日全体を通して必要量がとれるように支援しています。体重の増減にも注意を払っています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力量に応じて、見守りや本人の気持ちに配慮しながら手伝いを行っています。義歯は就寝前に預かり、洗浄剤に浸しています。必要のある方には訪問歯科の口腔ケアや治療を受けてもらっています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表の活用と、排泄パターンや排泄のサインを把握することでさりげない声掛けや誘導を心掛けています。一人ひとりの力や、気持ちに配慮した排泄用品を選択しています。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、利用者にあった言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状況を把握、記録して、水分補給や体操や散歩などの運動で予防に取り組んでいます。自然な排便が難しい場合には、腹部マッサージをしたり、訪問介護士や医師と相談して薬を調整してもらっています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に合わせて、時間や回数、湯温などの好みにも配慮して、ゆっくりと入浴が楽しめるように心がけています。本人の状況に応じてシャワー浴や清拭、足浴などでの対応もしています。	入浴は、日曜日以外の毎日、10時30分から16時まで可能で、湯加減や順番、季節の柚子湯等、利用者の希望に合わせてゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には、無理強いしないで入浴時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、皮膚の乾燥予防のためのセラミドのかかり湯やオイルの利用など、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣やその日の活動状況や体調に合わせて個別に休息がとれるように支援しています。眠れない利用者については、原因を見極めて生活のリズムを見直したり、夜間落ち着ける環境(灯り、室温、湯茶、話の傾聴)づくり、場合によっては医師と相談して薬剤の在り方について相談し、調整を行っています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示、処方箋、薬の内容など本などを参考に確認しています。個々の処方箋のコピーなどをケースごとに整理し内容の把握をしています。また処方の変更や症状の変化などは申し送りノートや記録を活用して情報を共有し、症状の変化のあった時は医師との連携を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの力や生活歴を踏まえて、食事の下ごしらえや配ぜん、片付けやお盆拭き、掃除などそれぞれが役割を持ち、自然に活躍できる場面を作っています。またおやつや、飲み物など好きな時間に好みのものが楽しめるように家族の協力も得ながら支援しています。	掃除(モップで床を掃除、ハンドワイパー掛け)、ゴミ捨て、カーテンの開閉、点灯、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物を居室にしまう、花を生ける、広告でゴミ箱づくり、雑巾を縫う、電子ピアノ演奏、そろばん、習字、写経、本や新聞を読む、皇室アルバムを見る、テレビやDVD視聴、日記を付ける、ぬり絵、貼り絵、編物、ラジオ体操、リハビリ体操、ボール体操、タオル体操、ダンベル体操、トランプ、かるた、将棋、おはじき、お手玉、坊主めくり、計算ドリル、漢字ドリル、数字取りゲーム、ストロー受けゲーム、風船バレー、ジェンガ、食事の準備、食事づくり、後片付けなど、利用者の喜びや張り合いとなる場面を多くつくり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、個々の状態に応じて散歩やドライブ、買い物など外出支援をして気分転換や、季節を感じてもらっています。また、利用者の自宅にドライブをしたり、なじみの神社にお参りしたり、定期的に自宅へ車いすでの外出支援もしています。	周辺の散歩や買物、季節の花見(桜、菖蒲、紫陽花、バラ、コスモス、紅葉)、ドライブ(自宅周辺、八幡様、竜王山、飛行場、海の見える東岐波、北向き地藏)、初詣(琴崎八幡宮)、福原氏邸跡、宗麟寺、イルミネーション見学に出かける他、家族の協力を得て法事への出席や買物、外食、一時帰宅、外泊など、一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	5名現金を所持しておられる。本人の希望に沿って一緒に買い物に行ったり、本人が支払えるように支援しています。所持しておられない方にも、ご家族の了解をいただき、一緒に買い物をした際には預り金から支払えるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてスタッフルームから電話がかけられるように支援しています。かかってきた電話もゆっくりと会話ができるように配慮しています。 家族への年賀状など利用者の有する能力に応じて支援しています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日掃除をし気持ちよく使えるようにしています。また落ち着いて過ごす事ができるように照明、音、室温などに配慮しています。 居間には利用者と一緒に作った作品を飾ったり、季節の花を利用者に生けてもらったり、ゆず湯や行事食などで季節感をだしています。	広々としたガラス窓から1年中、公園の木々の緑が眺望できる食堂兼リビングは、大きな机や椅子、ソファがゆったりと配置しており、落ち着いた空間となっている。季節の生花や壁面を飾る利用者の作品、飾り物に季節を感じることができる。室内の温度や湿度、換気にも配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、一人掛け、または数人掛けのソファを置き、ひとりでゆっくりと過ごせたり、2、3人でくつろげる環境をつくっています。 廊下のソファではぬいぐるみや雑誌を置いて、外の景色を眺めながら思い思いに過ごせる空間にしています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものをそろえてもらいその人らしく居心地の良い空間になるようにしています。 持ち物が少ない場合にも職員がその人らしく暮らせるような環境づくりに取り組んでいます。	電子ピアノ、テレビ、時計、椅子、1人用ソファ、衣装ケース、衣裳かけスタンド、縫いぐるみ、鎌倉彫の3段箱、櫛、鏡、造花等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、自作品や家族写真を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせて歩行器やシルバーカー、車いす、センサーマットなどを取り入れています。居室の家具の配置や日用品の収納などは利用者が作業しやすく、安全に生活できるように状況に合わせて環境整備しています。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームオアシスことしば

作成日: 平成 29 年 9 月 20 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	2ヶ月に1回の施設内の研修への参加に加えて、グループホーム独自で行う研修で、応急手当や初期対応の訓練を計画的に行う。	グループホーム内での研修計画を立て、毎月のカンファレンス時に時間を確保して実施する。	2年
2	4	全職員での自己評価への取り組み	自己評価に取り組む目的や意義を全職員が理解し、それに取り組むことで自施設の良い点や、課題に気づき改善に向けての取り組みにつなげていく。	ガイド集を職員全員が目を通し、考え方の指針やポイントを押さえたうえで自己評価に取り組む。 自己評価、外部評価の結果をもとに、職員で話合って目標を定め、目標達成に向けて取り組んでいく。	1年
3	36	地域との協力体制の構築	火災や地震、水害時の避難場所として施設を活用できるように働きかけていく。	運営推進会議で地域の代表の方、家族の方々と災害時の協力体制についての話し合いをしていく。 話し合いの中から自施設にあった協力の仕方を構築していく。	2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。